

哈薩克は游牧生活の種族なり。故に土着人民に比し、數層簡便なる氈幕に住居す。該氈幕は、分解結合運搬共に至便なるものにて、之を結合するや、初め平地上凡そ直徑一丈二、三尺の圓場を畫し、周圍に七八本或は十二三本の柱を立て、其間に網形に結束せる小楞木(縮革を以て結合し伸)を廻らし、以て柱に緊着して、圓形の外圍を作り戸口を其の一方に開く、幕蓋の構造は、先づ幕頂の小輪(中徑二三尺)を、中央上適宜の高さに掲持せしめ、多くの反り木にて是に箝入しつゝ、楞木網に縛し、互に環接して、一大圓錐蓋を成形せしむ。斯くて圓屋の骨幹成るや、幕頂小輪の圓孔を遺し、他は渾て厚氈にて其の外圍を包皮し、羊毛繩を以て、縱横に縛し、上部の圓孔は、烟を出し明を取るに便じ、且つ之に引繩を附して開閉す。出入口は、通例只毛氈を垂下するのみ。風雪を凌ぐには、別に木製(裏面に氈を張りしもの)の戸を設く。

氈幕内は、富者は羅紗又は他の布に、五彩の色絲及金銀絲を以て、巧に繡箔し、たる美麗の幔幕様のものを繞らし、(通常五帳)地には厚き毛氈、段通類を敷きて、數個の木匣を列べ、其上に馬鞍を裝置す。而して其の一方隅には、鞭、刀、斧類を掛け、中央圓孔の下邊には、圓形の爐を設け、上に大鍋を掛けて食物の烹煮及煖室の用に供ふ。而